



Universitas Riau

BATOBO

Dosen

Nana Rahayu, B.com M.si,.

バトボ

あなたは「バトボ」という言葉を聞いたことがありますか？バトボ、または「トボ」とも呼ばれるこの活動は、グループで協力しながら順番に農地を耕す農作業のことで、す。バトボは、助け合いや家族のような関係を大切にしています。一緒に農作業をしますが、収穫物はみんなのものではありません。バトボは主にリアウ州のキャンパルやクアタン・シンギンギという地域で行われています。

最初、バトボは女性たちによって行われていました。なぜなら、男性たちは普段、出稼ぎに行っていたからです。そのため、農業の仕事は女性の役割になっていました。バトボには、ふつうのバトボとパスックアン・バトボの2つのタイプがあります。ふつうのバトボは、いろいろな民族の人たちが参加できます。一方、パスックアン・バトボは、同じ民族の人たちだけで行います。

バトボのグループは、ふつう20人から40人で、一人のリーダー（ツアトボ/長）がいます。このリーダーは、活動のスケジュールや場所など、全体の責任を持っています。バトボは主に畑作りの季節や新しい畑を作る時期に行われます。

バトボは、カンパルやクアタン・シンギンギだけでなく、西スマトラ州のスジュンジュンでも知られています。そこでも、田んぼと一緒に耕す活動として行われています。

多くの人々は農業で生活しているため、このような助け合いはとても大切です。

バトボを始める前に、人々は会議を行い、農地の境界や、活動中のマナーについて話し合います。スジュンジュン人たちは、バトボはただの助け合いだけでなく、人との付き合い方を学ぶ場でもあります。

さらに、バトボの日には、レマング、お粥、ドドル、タラムケーキなどの伝統的な食べ物も用意されます。しかし、今では時代の変化とともに、バトボはあまり行われなくなってきました。土地の持ち主は、お金を払って他人を雇うようになりました。